

第690回

定期演奏会

井上道義、ラスト京響定期は
シヨスタコーヴィチ祭り!
盟友クニャーゼフとの共演も聴き納め!

チェロ:
アレクサンドル・クニャーゼフ*
Cello: Alexander Kniazev*
©Ugo Ponte

指揮:
井上 道義

Conductor:
Michiyoshi Inoue
©Yuriko Takagi

合唱:
京響コーラス*
(合唱指揮:福島 章恭)
Chorus:
Kyoto Symphony Chorus*

京都市交響楽団

The 690th Subscription Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra

2024

フライデー・ナイト・スペシャル

はいつもと違う!

気軽にオーケストラ・サウンドが楽しめる、
それが「フライデー・ナイト・スペシャル」!
★夜7:30開演なので、仕事帰りにも行きやすい!
★休憩なしのプログラムに楽しみを凝縮!
★親しみやすい曲、ピアノ独奏曲など、多彩な
曲目のセレクトで金曜の夜を楽しめる!
★田向日鑑賞で京響定期のコンプリートも!
★上座公演よりもリーズナブルな
料金設定で来場しやすい!

6/21 金 午後7時30分開演
(午後6時30分開場)

Fri, June 21, 2024 / 7:30PM

シヨスタコーヴィチ: チェロ協奏曲 第1番
変ホ長調 作品107*
シヨスタコーヴィチ: 交響曲 第2番
ロ長調 作品14「十月革命」*

Shostakovich: Cello Concerto No.1 in E-flat major op.107*
Shostakovich: Symphony No.2 in B major op.14 "A dedication to October"*

6/22 土 午後2時30分開演
(午後1時30分開場)

Sat, June 22, 2024 / 2:30PM

シヨスタコーヴィチ: チェロ協奏曲 第1番
変ホ長調 作品107*
シヨスタコーヴィチ: チェロ協奏曲 第2番
ト長調 作品126*
シヨスタコーヴィチ: 交響曲 第2番
ロ長調 作品14「十月革命」*

Shostakovich: Cello Concerto No.1 in E-flat major op.107*
Shostakovich: Cello Concerto No.2 in G major op.126*
Shostakovich: Symphony No.2 in B major op.14 "A dedication to October"*

開演前
は指揮者による
「プレトーク」で
お楽しみください。

6/21 土公演: 午後7時ごろから
6/22 土公演: 午後2時ごろから
「プレトーク」はホール・ステージ上
にて開催します。

P席の販売は無しでご案内しておりましたが
ステージ配置を調整し
ポディウム席(舞台後方席・2列目以降)を
P席として販売いたします

京都コンサートホール Kyoto Concert Hall

京都市営地下鉄丸線「北山」駅下車、出口1・3番から南へ徒歩約5分

2024
4/13
から発売

入場料

6/21 土公演 **フライデー・ナイト・スペシャル**
¥4,000円 ¥3,500円 ¥3,000円 ¥2,000円 ¥1,500円(舞台後方席)
U22 (当日残席がある場合のみ発売) ¥1,500円 ¥1,000円 ¥500円 ¥500円

6/22 土公演
¥5,500円 ¥5,000円 ¥4,000円 ¥3,000円 ¥2,000円(舞台後方席)
U22 (当日残席がある場合のみ発売) ¥2,000円 ¥1,500円 ¥1,000円 ¥1,000円

※「U22」は22歳以下のお客様が対象です。開演1時間前から発売(当日券売場にてお問い合わせください)。電話や窓口での事前予約はできません。席種は選べますが、座席指定はできません。ご購入及びご入場の際には年齢の確認できる証明書をご提示ください。

チケット
ご予約

●京都コンサートホール (075) 711-3231 ●ロームシアター京都 (075) 746-3201
●24時間オンラインチケット購入 <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>
●チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード252-728
●ローソンチケット <https://l-tike.com/> Lコード55580

お問
合わせ

京都市交響楽団 (075) 222-0347 <https://www.kyoto-symphony.jp/>
京都コンサートホール (075) 711-3231 <https://www.kyotoconcerthall.org/>
◎未就学のお子様のご入場はお断りいたします。
◎都合により曲目、出演者等が変更となる場合がございます。



◆1歳以上未就学のお子様は「託児ルーム」(有料・要予約・定員10名)をご利用ください。(お子様お1人につき1,000円/2024年6月14日までに京響075-222-0347へお申し込みください)
◆10枚以上でのチケットお申し込みには団体割引(10%OFF)があります。京響(075-222-0347)までお問い合わせください。
◆障がいのある方ご本人及び介助の方1名に限り1割引いたします。京都コンサートホール・ロームシアター京都のみで取扱います(窓口で手帳等の証明書をご提示ください)。



主催: 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都市

協賛: ローム株式会社

協力: 株式会社ドルチェ楽器

後援: (株)エフエム京都

発行: 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

美しいひびき、感動にみちた
音楽との出会いをお届けします。



The 690th Subscription Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra

ショスタコーヴィチ三昧の定期。現代ロシアのチェロ界を代表するアレクサンドル・クニャーゼフ独奏によるチェロ・コンチェルト2曲は、どちらも30分を超える大作です。第1番はプロコフィエフのチェロとオーケストラのための交響的協奏曲を聴いた時に受けた衝撃から生まれたそうです。4つの楽章から構成(コンチェルトの楽章は通常は3つ)されています。プロコフィエフへの挑戦のような仕上がり第1番はチェロの名手ロストロポーヴィチに捧げられ、彼が初演もしました。7年後に完成した第2番はもう他の作曲家を意識せず、ショスタコーヴィチ独自の出来上がりとなったそうです。心の底から湧き出るような始まりの第1楽章、第2楽章スケルツォ〜第3楽章フィナーレと連続で演奏されます。皮肉っぽいショスタコーヴィチ独特の作風とホルンによるファンファーレで始まる第3楽章は華々しくも印象的で、エンディングは独奏チェロと打楽器の奇妙なやり取りで幕を閉じます。交響曲第2番は十月革命の10周年記念日を讃えるため作曲されました。混沌とした「序奏」から始まり、フーガを経て混声合唱が入る「コーダ」へと進みます。京響コーラスが共演します。井上道義、ラスト・イン・京響。お聴き逃しなく!

指揮 ◆ 井上 道義

1946年東京生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄氏に師事。1971年グイド・カンテルリ指揮者コンクール優勝。ニュージーランド国立交響楽団・首席客演指揮者、新日本フィルハーモニー交響楽団・音楽監督、京都市交響楽団・音楽監督/第9代常任指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢・音楽監督、大阪フィルハーモニー交響楽団・首席指揮者を歴任し、斬新な企画と豊かな音楽性で一時代を切り拓いた。2007年には日露5つのオーケストラとともに「日露友好ショスタコーヴィチ交響曲全曲演奏プロジェクト」を行い、音楽・企画の両面で大きな成功を収めている。このプロジェクト以降、日本におけるショスタコーヴィチの演奏会は一気に増加しており、井上はその最大の功労者とも言われている。2014年4月に病に倒れるが、同年10月に復帰を遂げる。2015および2020年には全国共同制作オペラ《フィガロの結婚》(野田秀樹演出)、2017年 大阪国際フェスティバル『バーンスタイン:ミサ』、2019年 全国共同制作オペラ《ドン・ジョヴァンニ》(森山開次演出)、2023年『井上道義: A Way from Surrender ~降福からの道~』などをいずれも総監督として率い、既成概念にとらわれない唯一無二の舞台を作り上げてきた。2016年「渡邊暁雄基金特別賞」、「東燃ゼネラル音楽賞」、2018年「大阪府文化賞」、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティック・クラブ賞」、2019年NHK交響楽団より「有馬賞」、2023年「第54回サントリー音楽賞」を受賞。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢桂冠指揮者。2024年12月30日に指揮活動を引退する。



©Yuriko Takagi

チェロ ◆ アレクサンドル・クニャーゼフ

6歳よりアレクサンドル・フェドルチェンコにチェロを師事、1986年モスクワ音楽院を卒業。1990年チャイコフスキー国際音楽コンクール第2位。スヴェトラノフ、テミルカーノフ、ロストロポーヴィチ、フェドセエフ、デュトワ、ヤルヴィ、マズアなど偉大なマエストロの強い信頼を得、ロシア国立響、サンクトペテルブルク・フィル、チャイコフスキー響、ウィーン響、ロイヤル・フィル、パイエルン放送響、フランス国立管、エーテポリ響等と共演を重ねている。室内楽にも情熱を注ぎ、キーシン、レーピン、ルガンスキー、ベレゾフスキー、レオンスカヤ等と共演。ロシア国内はもちろん、コンセルトヘボウ、ウイグモアホール、リンカーンセンター、ウィーン・ムジークフェライン、サル・プレイエル等の音楽の殿堂、ザルツブルク、タンゲルウッド、ラ・フォル・ジュルネをはじめ数々の音楽祭からも招かれている。二度レコーディングしたパッハの無伴奏チェロ組曲をはじめ数々のCDはいずれも絶賛され、受賞も多い。また、オルガンをガリーナ・コズロワに師事、ヨーロッパ各地のカテドラル、コンサートホールでのリサイタル、「ゴルトベルク変奏曲」をはじめ数々のパッハ作品のレコーディングも絶賛されている。



©Andrei Mustafayev

Chorus: Kyoto Symphony Chorus

合唱 ◆ 京響コーラス

(合唱指揮: 福島 章恭)

1995年秋、京都コンサートホールが完成した当時の京響音楽監督&常任指揮者・井上道義の提唱で「京響第九合唱団」として結成。その後「京響市民合唱団」と改名し、2012年からはさらに音楽的な高みをめざして、京響の自主演奏会を軸にオーケストラ合唱作品に取り組み「京響コーラス」と名称を変更、創立者の井上道義を創立カペルマイスター、当時の京響常任指揮者広上淳一をスーパーヴァイザーに迎えて新たにスタートした。現在、約130名の団員で構成されており、毎週月曜日の夜を中心に京響練習場・京都市内文化会館等で練習を行っている。

京都市交響楽団

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年、第12代常任指揮者の広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞、同年6月、広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収めた。平成28年度地域文化功労者表彰、2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等を受賞。2020年4月、第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一(2022年3月まで)、首席客演指揮者にジョン・

アクセルロッド(2023年3月まで)が就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。2023年4月から第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任、さらに2024年4月からは首席客演指揮者にヤン・ヴィレム・デ・フリーントが就任。京響は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



©井上亨真事務所 井上 道義